

Oct, 2023

Gender equality & Poverty reduction

Vol. 19

ジェンダー平等・貧困削減ニュースレター



Cover Photo: JICA / Atsushi Shibuya

CONTENTS

-
1. 巻頭メッセージ：ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 室長 溝江恵子
 2. ジェンダー平等の潮流：人身取引対策
 3. 貧困削減の潮流：CGAP 総会が開催されました
 4. 案件紹介：スリランカにて、新規技術協力プロジェクト始動！
 5. 研修紹介：アフリカにおける女性のビジネス・起業の推進
 6. 書籍紹介：「LEAN IN -女性、仕事、リーダーへの意欲-」、「99%のためのフェミニズム宣言」
 7. インド映画紹介：「Saand Ki Aankh(仮訳：牛の目)」、「Toilet: Ek Prem Katha(仮訳：トイレ：ラブストーリー)」

巻頭メッセージ

2023年6月に発表された、World Economic Forumによるジェンダーギャップ指数（Gender Gap Index: GGI）。[2023年版](#)では、日本は125位（146か国中）と、これまでで最低ランクとなりました。2023年のGGI値は0.647と発表開始（2006年）の0.645と殆ど変わっていませんが、ランクは2006年の80位から大きく後退しました。日本では15年以上ジェンダーギャップの縮小が停滞する中、他国が日本を追い抜いていくこととなりました。GGIは4つの要素（教育、健康、経済参画、政治参画）から構成されており、日本が低いのは、政治参画と経済参画ですが、読者の皆様は、2006年からの変化をどのように感じられるでしょうか。世代やお住まいの地域によって、感じ方は異なるかもしれません。例えば市区町村レベルでは平均すると女性議員の割合は15.4%ですが、都市部にある特別区における女性議員比率は[約30%](#)と最も高い一方、規模の小さい町村議会では、[女性ゼロの自治体が4分の1以上（約27%）](#)となっています。また、女性の年齢階級別労働力率（M字カーブ）は、[以前と比較するとカーブが浅くなり欧米地域のような台形に近づいています](#)が、女性は男性と比較して非正規雇用率が高く、管理職の割合が低いこともあり、賃金格差も依然として存在しています。

社会や文化等に根差した不平等や差別を是正するためには、思い切ったアクションをとることもときには必要かもしれません。同じく6月に発表された、[女性版骨太の方針2023](#)では、プライム市場上場企業を対象として、女性役員比率の数値目標が設定されました（2025年を目処に女性役員を1名以上選出、2030年までに女性役員比率を30%以上）。[他方で、年代別でみると若い男性ほど性別を理由とする不利益を感じている、という調査結果が出ています（逆に女性は年代が高いほど性別を理由とする不利益を感じている割合が高く、若い年代でも性別を理由とする不利益を感じている割合は男性より女性の方が高いです）](#)。差別や不平等の是正の過程で、不利益を感じる人々が出てきてしまうのは、ある意味避けられないのかもしれませんが。それを緩和するためには、まずはお互いの状況を客観的に認識することが第一歩ではないかと思います。

（ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 室長 溝江 恵子）

ジェンダー平等の潮流：人身取引対策

毎年7月30日は、人身取引の防止・抑制と被害者の保護・支援を促進するために人身取引の問題を啓発する人身取引反対世界デーです。今年も、世界中の[関係機関](#)が、人身取引根絶に向けて被害者保護や加害者処罰などへの強化を訴えました。

「現代の奴隷制」ともいわれる人身取引は、暴力や脅迫などによって、人びとを逆らえない状況に追いやり、労働や性的サービスを強要し搾取する深刻な人権侵害です。また、コロナ禍の影響による経済格差の拡大や行政機関の対応能力低下は、人身取引のリスクを増大させているとの報告もあるため、各国間及び関係機関間のパートナーシップを一層強化し、より効果的な対応策を講じていく必要があります。

JICAでは、2009年の[タイ](#)への技術協力を皮切りに、[ベトナム](#)やミャンマーを含む東南アジアの国々に対して人身取引の能力強化支援を行ってきました。具体的には、女性や少女への支援やエンパワメントの観点から、被害者の社会復帰や保護を担う行政官などの能力強化、関係組織の連携強化に注力してきました。

さらに、国境を越えた課題である人身取引を根絶するためには、一国への支援のみならず、地域単位でのアプローチが必要とされています。タイで実施中の「[人身取引対策のためのメコン地域ネットワーク強化プロジェクト](#)」では、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジアで人身取引対策に従事する省庁や NGO の実務者間のネットワーク強化を目的としたメコン地域ワークショップ（Mekong Regional Workshops: MRW）の開催を支援しています。今年の第 11 回 MRW は“How to Incorporate Perspectives of Gender and Social Vulnerabilities into the Protection Process”をテーマとして開催され、各国で今後 1 年間で達成期限とする Activity Plan が作成されました。

一方、人身取引は相手国だけの問題ではありません。残念ながら、日本でも性的搾取や強制労働などの報告は後を絶たず、私たちの周りにも苦しんでいる人々がいます。

この現実に対して、日本では「被害者中心アプローチ」に基づいた人身取引対策を行っています。これは、被害者の権利を最大限尊重し、認定、保護、社会復帰、加害者の訴追における被害者の負担を最小化するための取り組みです。これまでの支援においても、関係する相手国の関連計画やガイドラインに、被害者中心アプローチを導入し、関係者の意識改革を図ってきました。

今年 3 月からは、[米国国務省の人身取引レポート](#)で、2 年連続で最も対策が遅れている国の一つとされているカンボジアにおいても協力を開始しました。カンボジア政府には人身取引対策の予算や人材確保面などで課題がありますが、被害者中心アプローチの導入や MRW での成果を活用して、政府としての人身取引対策の強化を目指していきます。



プノンペンの人身取引被害者用のシェルターの様子

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 齋藤 有希)

貧困削減の潮流：CGAP 総会が開催されました

2023年5月31日から3日間、CGAP：The Consultative Group for Assist the Poorの年次総会がブラジルのサンパウロで行われました（CGAPについては、[ニュースレター16号](#)をご覧ください）。総会では、2023年7月から5か年を対象とする第7期CGAP中期戦略と年次計画（2023年7月～2024年6月）が承認されました。また、金融包摂の好事例としてブラジル中央銀行が開発した即時決済システム「ピックス」（PIX）が紹介されました。PIXの特徴は、中央銀行がデータベースや決済システムを一元管理、全ての金融機関の導入とロゴ、ユーザーエクスペリエンスの統一を義務化、口座情報を使わずID（携帯電話番号など）を利用して取引、安価な手数料（個人の場合は無料）という点です。PIX導入によりブラジルで1,000万人が初めて銀行を利用したとされています。銀行にとっては利用者増加により市場が拡大し、よいサービスを提供すれば事業拡大が見込めるビジネスチャンスとなり、顧客にとっては無料で利用でき、現金を携帯するリスクが減少、銀行間の健全な競争が促されることによりサービスが向上するなど、両者により効果が生まれています。また、中小企業経営者にとっては、PIXは手数料が安く即時決済のため販売後の入金が多く早く経営のやりくりにも役立っているという声がありました。他方で、PIX加入登録の偽サイトやPIX強盗も現れるなど新たな詐欺や犯罪も出てきたそうです。金融の世界は、デジタル化やそれに伴う新たなビジネスモデルの創出など、大きな変革の真っ只中です。そして、その変革に金融包摂の視点が含まれることで、貧困削減にも貢献が期待できます。金融包摂にご関心のある方はCGAPのウェブサイトをご覧ください。



PIX を利用している軽食屋さん



軽食屋さんの会計カウンター。奥に2種類のクレジットカード決済端末機（事業者が端末機器を購入）があるが、多くの客がPIXを使うとのこと。PIXの利用には機器、費用は必要ない。

（ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 室長 溝江 恵子）

案件紹介：スリランカにて、新規技術協力プロジェクト始動！

スリランカ国にて、2023年3月末より、新規の技術協力プロジェクト、「起業とビジネス、リーダーシップ及びネットワークの強化を通じた女性の経済的エンパワメント促進プロジェクト」が開始しました！

本事業は、2022年の春以降、深刻な経済危機に見舞われているスリランカにて、女性の経済的エンパワメントの推進を図っていくために立ち上げられた4年間のプロジェクトです。

具体的な活動としては、市場志向型の起業やビジネスの推進、地域ごとに結成されている女性組織であるWAS（Women Action Society）の活性化に向けた取り組みをアンパラ県とモナラガラ県の2県で実施します。そしてその教訓・好事例を元に、地域の女性たちの経済的エンパワメントの推進に向けて有効な支援アプローチや手法を「起業とビジネス、リーダーシップとネットワークの強化を通じた女性の経済的エンパワメント促進モデル」としてとりまとめ、その活用の促進と制度化を働きかけます。

本事業開始以前はJICA本部ジェンダー平等・貧困削減室に勤務していた担当者が、長期専門家（女性のエンパワメント／政策調整）として女性・子ども・社会的エンパワメント省下の女性局に常駐し、現在、コンサルタントチームと共にプロジェクトの実施にあたっています。

今後もプロジェクトの進捗を皆様にもお伝えしていきますので、ご期待ください！



プロジェクト推進の重要なパートナーである、事業地の女性開発担当官たち



地域の女性組織である WAS のメンバーたち

(スリランカ長期専門家 中島 泰子)

研修紹介：アフリカにおける女性のビジネス・起業の推進

本研修は、アフリカにおける女性のビジネス・起業を推進することを目的として JICA 横浜にて 10 年ほど実施されています。これは 1993 年から実施されてきた [TICAD Tokyo International Conference on African Development \(アフリカ開発会議\)](#) でも提唱されている「持続性の高いアフリカ各国の民間セクターを通じた経済発展」に沿うものです。

TICAD が [2008 年](#)、[2013 年](#) と [2019 年](#) に横浜市で開催されたこともあり、本研修では横浜市をはじめとした日本国内における取り組みの現状や課題、知見・教訓を、研修員と共有しています。また、国際的な潮流や動向も踏まえ、ジェンダー平等と女性のエンパワメントの視点に立ったビジネスや経営戦略の重要性について理解を深める内容としています。研修の特徴として、「女性企/起業家」と「女性の起業・企業を支える行政官」がペアとなって各国より参加していることが挙げられます。今では、アフリカ各地に 115 名を超える帰国

研修員が存在しており、「官民連携」の下、TICAD の提言に沿った形で活動を展開する帰国研修員もみられます。

本研修では、昨年度より新たな取り組みとして、クラウドファンディングの実践紹介を取り入れました。ソーシャルファンディングとも呼ばれ、世界のあらゆる人々や組織から財源や協力を得ることができ、社会課題の解決に貢献するビジネス実践の場として期待が持たれています。また、JICA が様々な知見を貯蓄している「[KAIZEN](#)」、「[SHEP](#)」、そして、開発途上国におけるビジネス・イノベーション創出に向けた起業家支援活動「[NINJA プロジェクト](#)」といった、具体的な実践の取り組み紹介をしたことにより、研修員は手応えを得ている様子でした。既に「NINJA プロジェクト」の関係者と帰国研修員の交流なども始められています。今年度は、「SDGs 達成に向けた社会課題解決のためのソーシャルビジネスについてアフリカと日本の女性起業家が語る」をキーワードとし、横浜市の協力の下、[公開セミナー](#)も実施しました。発表者の女性企/起業家研修員からは、「運輸分野は男性社会であるためジェンダー課題の解決には政府のサポートも必要」というコメントや、SDGs 達成や社会課題解決のためのソーシャルビジネスの立ち上げについて紹介があり、SDGs 達成への貢献を目指す JICA として、JICA グローバルアジェンダに沿って来年も「アフリカ女性のリーダーシップおよび起業・マネジメントの能力強化」を本研修の目標として実施していきます。



横浜市からの講義を終え、横浜市城副市長(中央)を囲む研修員たち



2023年4月の公開セミナーにて、横浜市 TICAD 推進部長(前列中央)や fermata(株)CEO(前列右)、研修員らなど登壇者



同セミナーにて、女性起業家でもある研修員による発表の様子

(横浜センター 研修業務課 片山 元子)

書籍紹介：

『LEAN IN -女性、仕事、リーダーへの意欲-』、「99%のためのフェミニズム宣言」

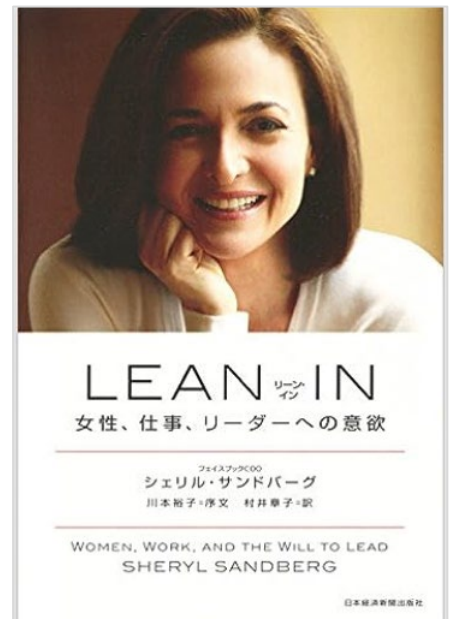
書籍紹介

『LEAN IN -女性、仕事、リーダーへの意欲-』

フェイスブック COO シェリル・サンドバーグ／川本裕子 序文／村井章子 訳、日経 BP、日本経済新聞出版本部、2018年10月

「LEAN IN」は、フェイスブックのCOOを務める作者が、これまでのキャリアと家庭、子育ての経験を振り返りながら、自分の幸せとキャリア上の成功を手に入れるための方法を教えるベストセラーの作品です。自分自身が子育てとキャリアに悩んでいた時、先輩から紹介してもらいました。

作者の言葉や考え方はどれも心に刺さるものばかりでした。時に、人生の中で以前は意識していなかったジェンダー課題と向き合うことがあります。作者は、どんな苦難があっても前を向いて、自分の人生は自分で決めること、そしてあきらめなければ道が開けることを教えてくれています。キャリアと家庭、子育てに悩む女性に勇気を与えてくれる一冊です。



『99%のためのフェミニズム宣言』

シンジヤ・アルツァ、ティティ・バタチャーリヤ、ナンシー・フレイザー著／恵 愛由訳／菊地夏野 解説、人文書院、2020年10月

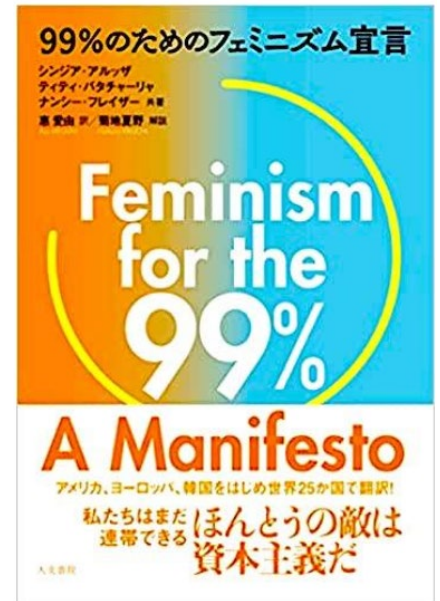
上述の「LEANIN」と読み比べてみてはどうか、とジェンダー平等・貧困削減推進室のメンバーに薦められたのが、2冊目の「99%のためのフェミニズム宣言」です。

この作品は、メソメソした悲劇のヒロイン(=私)の「目からうろこ」の内容でした。私は、自分が苦難の中をもがき、「LEANIN」のようにある意味、「荒波をくぐり抜けて勝ち取る成功こそがジェンダー平等へとつづく」と信じていたことに気づきました。男女が同等にキャリアを重ね、女性も組織の中で決定権や名声、時に財力を得ることを成功とみなす考えです。

「99%のためのフェミニズム宣言」は「LEAN IN」できる人を1%の存在として、話は始まります。他の99%は組織の経営に「LEANIN」する機会もなく、またトップを目指してキャリアに邁進できないことに悩んでいるのでもありません。

作者は、社会全体の危機の根源は資本主義であり、ジェンダー平等のために反資本主義の必要性を主張しています。有償労働だけが「労働」ではなく、家事、性交渉、そして笑顔までも無償労働であり「労働」としてみなすべき、との考えから、多くの女性が担う無償労働を可視化することによって、資本主義が利益を得つつも対価を払わないでいる無償労働に光を当てます。

「飛び散った破片の片付けを圧倒的多数の人々に押し付けてまで、ガラスの天井を打ち破ろうとすることに興味はない。役員室を占拠する女性CEOたちを称賛することはおろか、私たちはCEOと役員室自体を撤廃したいのである。」私は飛び散った破片の片付けを他の女性に押し付けるために生きたいのではない、だとすれば、人種や階級などのジェンダーを取り巻く交差性を再考し、私に何ができるか。そんな問いを突き付けられた一冊です。



(インドネシア事務所 赤塚 真貴子)

インド映画紹介：

「Saand Ki Aankh(仮訳：牛の目)」、「Toilet: Ek Prem Katha(仮訳：トイレ：ラブストーリー)」

映画紹介：ジェンダーにまつわるインド映画

安価で清潔な生理用ナプキンを作るために奔走した、社会起業家の男性を映画化した「パッドマン 5億人の女性を救った男」は日本でも話題になりましたが、インドにはジェンダーにまつわる映画がたくさんあります。

Saand Ki Aankh (仮訳「牛の目」)は、若くして結婚し、子どもをたくさん産み育てることだけを求められ

てきた農村の初老の女性2人が、実は射撃の天才だった、という実話に基づいた話です。こっそりと大会に出場し入賞を繰り返しますが、村の長老でもある家族の男性は女性が家から出ること、人前に出ること、男性より目立つこと、女性らしくないことが許せず、2人は暴力を振るわれたうえ、閉じ込められてしまいます。それでも親戚男性の協力を得ながら、自分らしく生きていくことを決心し、同じく射撃に関心がある孫娘のために男性達に立ち向かい、認めさせていく姿は感動的です。

Toilet: Ek Prem Katha (仮訳「トイレ：ラブストーリー」)は、インドで長年の問題となっている野外排泄を扱ったもので、こちらも実話がベースとなっています。宗教的慣習により家にトイレを作ることが許されないインドの農村。女性達は用を足すために暗くなってから集団で草むらに行かねばならず、セクハラ被害にも遭ってしまう。そんな生活に嫌気が差した妻から離婚を突き付けられた男性が、妻のために家族や長老と対峙し、トイレが女性にとって必要なものだとなんかの意識を変えていきます。

他にも、生まれてくる娘を産前産後から守るために奔走する夫婦を描く Jayeshbhai Jordaar や、トランス女性(割り当てられた性別が男性で、性自認が女性の人)とシス男性(女性に対して恋愛感情を持ち、割り当てられた性別に違和感を覚えない男性)の恋愛を描く Chandigarh Kare Aashiqui など、ジェンダーにまつわる社会的課題を扱った映画がたくさんあります。描き方は異なるものの、共通しているのは強烈な家父長制社会と、抑圧されている女性の変化を求めて立ち上がる姿です。女性の活動を妨害する際に振るわれる暴力や破壊、焼き討ちの描写は凄まじいものがありますが、それにひるまない登場人物達の姿に、どの作品も感動してしまいます。日本で見られない映画が多いですが、もし機会があれば是非ご覧下さい！

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 副室長 國武 匠)

ジェンダー/金融包摂案件、関連広報のリンク

・ガイダンスノート ジェンダー視点に立った COVID-19 対策の推進」

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/materials/COVID-19.html>

・JICA 事業におけるジェンダー主流化のための手引き

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/materials/guidance.html>

・New! 起業支援プログラムにおけるジェンダー主流化チェックリスト

https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/_icsFiles/fieldfile/2023/09/20/Checklists_for_applying_Gender_Lens_to_JICAs_entrepreneurship_support_programs.jp.pdf

終わりに

本ニュースレターをご覧いただき、誠にありがとうございました。本ニュースレターは、年三回程度発行しておりますが、今号はいかがでしたでしょうか。次号は冬に発行予定です。

読者の皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。(連絡先：gpgge@jica.go.jp)

(編集：荒木 美恵子)